

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

10月・11月の活動予定

■第8回まちづくり懇談会を開催

世界に発信できる
「鳩山の魅力」があった！

- ❶ 古代のシリコンバレー
国文化財指定になった鳩山窯跡群
- ❷ ユネスコエコパーク級の里山
「自然共生サイト」認定も夢ではない豊かな自然
- ❸ 世界農業遺産級の伝統農法
天水を利用した「ため池」農法と谷津田の稲作

まちづくり懇談会

調べて分かった鳩山の魅力を報告！

10月26日(土) 資料代300円

午後2時～4時 かわせみハウス
鳩山ニュータウン中央郵便局隣り

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム
問合せ・参加申込先 049-227-3001
mail kawasemi3001@gmail.com

9月開催の第7回懇談会に引き続き、10月26日(土)午後2時より4時まで、かわせみハウスで第8回「まちづくり懇談会」を開催します。参加費(資料代 300円)。

鳩山町に若い町長が誕生し、まちおこしの機運が高まっている折に、住民自身も勉強し、「楽しみながらまちおこしをしようよ」という仲間づくりが目的です。

第7回の懇談会では、第6回懇談会で発表した「世界に発信できる鳩山の魅力」をもう一度、若い世代に聴いてもらおうと開催しましたが、今回の懇談会では、「里山の魅力」を活かした具体的なまちおこしアイデアを叩き台にして、参加者どおしの意見交換を通して、よりリアリティーのあるアイデアにシェイプアップすることを期待しています。

■熊井の森トラスト地の草刈り作業

10月の山仕事の日程は別表の通りです。猛暑はひと段落し、いよいよ山仕事の季節がやってきました。刈払い機を使うだけでなく、刈りとったものの始末とか、記録写真撮影だけの協力も歓迎です。参加できそうな日がありましたらご一報ください。

■写真学校の受講者作品でミニ「写真展」

鶴ヶ島の洋食店「ビストロカタオカ」(鶴ヶ島市松ヶ丘1丁目15-5 ☎049-286-5777)で写真展(店内壁面に飾る)を計画中です。講師と親しいメンバーのお気に入りのお店の店主から展示依頼があり、メンバー全員で協議し環境フォーラム写真学校の1事業として出展を決定しました。ネイチャーフォト中心の作品ですが、食事の邪魔にならなくて、お客様に気に入って貰える写真、食事に華を添える写真となっているかが気になるところです。

【展示期間】10月1日17:30(ディナータイム)～10月31日13:00(ランチタイム) 定休日 月曜日。予約なしでもOKですが、予約を入れた方が確実。写真を見に来たと伝えたと何かしらのサービスがありそうです。

■第19回エコフェスタ比企in鳩山を開催

11月2日(土)午前8時半、スタッフ集合。テント張り、出店者用ブルーシート張り等の準備を始めます。環境フォーラムの活動PRの機会と捉えてやってきましたが、新刊本などのバザー売り上げが年々減り、テナント数をもっと増やすとか、売れるものをもっと用意するとかの、新たな活動資金づくりのアイデアをお寄せください。

翌日(3日)からは鳩山町の文化祭にも参加します。そのための活動紹介パネルづくりにもご協力ください。

10月・11月 活動スケジュール

- 10月 2日(水) 午前9時～トラスト4号地散策路延長作業
6日(日) 午前8時半～ 資源回収
// 午前10時～ ハト麦脱穀作業
8日(火) 午前9時半～ 理事会
定例観察会(10月からは実施日週末に変更)
10日(木) 午前9時～ トラスト2号地ひこばえ処理
18日(金) 午前9時～ 観音寺沼下休耕地草刈り
26日(土) 午後2時～ まちづくり懇談会
27日(日) 午前9時～写真学校
29日(火) 「熊井の森通信」35号発行
11月 2日(土) 午前10時～エコフェスタ比企
3日(日)～4日(月) 午前10時～鳩山町中央文化祭
12日(火) 午前9時半～ 理事会

9月の活動報告

■行ってきました、チェーンソー講習会



今年9月12日、13日、17日とチェーンソー講習会を受けてきました。昨年は瓜生さんが受講し、当団体が2人目です。山で木を切るときのリスクはいろいろあります。①山の作業は横に並んで作業を行う。転倒した場合、上下の位置にいると巻き添えになる。②ほかの木に寄りかかっている倒木（掛かり木）にはむやみに近づかない。③木を切り倒すときは、倒す木の高さの2倍（半径）以内は立ち入らない。④広葉樹の伐倒は木の重心が枝張りで異なるために倒れる位置が定まらないので細心の注意が必要。⑤倒木

の枝払いには跳ねたり、玉切（輪切りにする）は切った後の丸太が転がったりするので注意する。これらはチェーンソー作業だけでなく、山での刈り払い作業にも共通する危険があるので、熊井の森で作業するときにはお互い気を付けて行いましょう。（下川）

■自然共生サイト申請相談で担当事務所を訪問

9月24日（火）午後、さいたま新都心合同庁舎にある環境省関東地方環境事務所を3人で訪問。自然共生サイト認定の目的、対象となる区域、認定基準、自然共生サイト制度の今後などについて、担当者から丁寧に説明を受けました。認定されると「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」（OECM）として、世界中からアクセスできる国際データベースに登録されます。現在、埼玉県下での認定地は、トトロの森、飯能・西武の森、天覧山東谷津・ホトケドジョウの里、TOPANホールディング熊谷研究所、三富今昔村の5カ所。当団体は来年4月申請を目標にこれから準備を進めていきます。

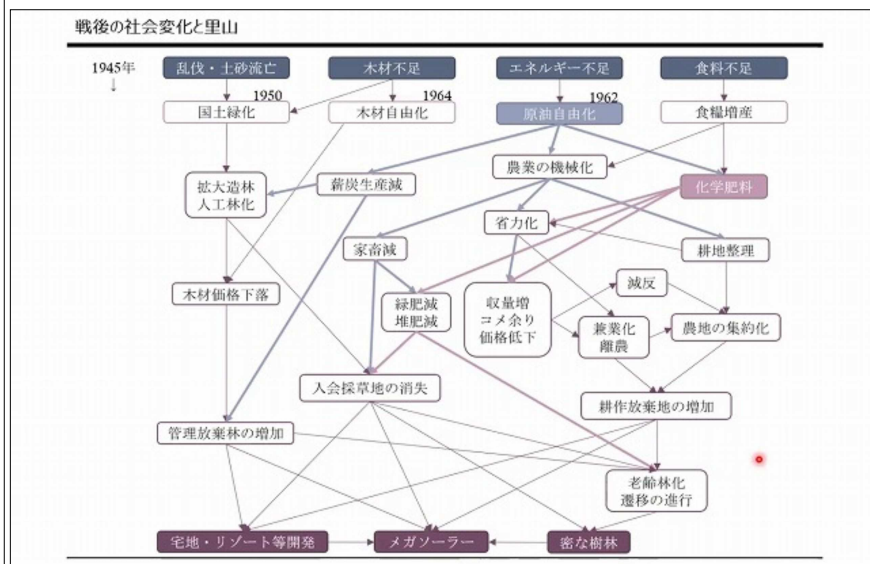
■今年も新しい畑でハト麦収穫

曇っていた空もいつの間にか秋晴れに、数日ぶりの夏日。今年で4回目となるハト麦の収穫。私にとっては初めての作業。根元をつかみ鎌で刈り取り、1束に結束。この作業を繰り返す。小休止に冷たいお茶と嵯峨さん手作りのおやつをいただき、元気をもらって作業を再開。

ハト麦の束は、一束ずつハザ掛けにして、最後にその上

急激な変化

「熊井の森」づくりの基本知識 ④



及により主要エネルギーの座から降ろされた木炭や薪、その生産元であるコナラやクヌギをはじめとした薪炭林も金銭的な価値が下がり、また、農業の効率化により落ち葉堆肥の利用が減ったことで、薪炭林の落ち葉の活用もされなくなり、戦後のスギ・ヒノキの植林政策に塗りつぶされてしまいました。

そしてその一大植林政策も安い外国産木材の輸入を解禁したことで立ち行かなくなり、「真っ当に管理した木材でも大したお金にならない」という現在の状況に陥り、今まで通りに手（コスト）を掛けられなくなってしまい、手入れのされていない単調なスギ・ヒノキ林ばかりになっています。

▲出典:6月11日開催、ZOOM学習会「里山に入る前に知っておくべきこと」での星昇講師の講演資料より

近年人々の生活スタイルの変化により、長い間人の手によって維持されてきた「多様性豊かな人為的な自然」というものが急速に失われつつあります。建築様式の変化や各家庭での家畜の減少により屋根材や飼料としての草地（茅場）の必要性が無くなり、化石燃料や電気の普

かつて数百年単位で続いてきた人々と自然との関わり方や人々の価値観そのものがここ数十年で急激に変わり続けています。その変化に「合わせて」なのか「従って」なのか、森や自然に対する価値が見直され、価値の「見える化」が進んできました。次回は最近の「自然の価値」についてお話ししたいと思います。（次回へ続く）

今年はエイヤーッと2回も開催

「栗ひろい&焼きたてピザ」イベントに参加者延べ35人



鳩山町熊井地区の農家とコラボして開催する「収穫体験」企画は、今年で4年目です。毎年、当日の天候や収穫物の実り具合や参加者数など、心やきもきすることがありながらも、どうにか続けてくることができました。

今年は栗の豊作年だと聞き、それならば、9月に『栗ひろい&焼きたてピザ』イベントを2回開催しようと、準備をしてきました。開催日を9月15日と22日の日曜日に設定。会場は地元の方の栗林で、無農薬無肥料、自然の力で育っている栗の木が並んでいる所です。

9月15日（日）は、涼しい微風が吹く秋晴れの清々しい空の下、足元には栗がたくさん落ちていて、参加申し込み者は定員20名を超えるほどで、過去最高のコンディションで迎えられ、スタッフ一同大感激でした。

栗ひろい&ピザ焼き味覚体験イベントに参加して

・今年は残暑も厳しい中、また遠方からご参加いただいた皆様には、大変ありがたく思いました。今回、運営スタッフとしてピザ焼きを担当しましたが、少々焼きムラもあったかと思います。もっと、美味しく焼けるように上達したいと思いました。（今野和之）

・自分の日常生活と全く関係のない場所が新鮮で、味覚体験に参加してとても良かった。ピザのクオリティが高かった！ 焼き方、生地、厚さ、トッピングのバリエーション等、とてもよかった。ピザのトッピングを切ったりして、自分でできるこの形式は、参加者を楽しませようというサービス精神を感じた。山登りも、獣みちを上がっていく感じがとても良かった。距離もちょうど良かった。鳩山を満喫できた。（Oさん）

参加された方々は、さいたま市や川口市などの遠くの方や、地元の鳩山町の方など、さまざまで、小さな子どもづれの親子、女性のお友だちグループ、ご夫婦などで参加されていました。

アンケートの感想には、「自然を求めて田舎へ来た」とか、「子供に初めての栗ひろいをさせたかった」「日常と違う経験ができた」などと書かれていました。また、焼きたてピザも好評で、ご自分でトッピングしたピザが石窯でパリッと焼かれ、熱々をほおばるのも楽しかったようです。そんな参加者が楽しむ姿に、スタッフたちも感激しました。



9月22日は、昨夜の小雨に続き、朝は霧雨が降っていて、開催できるかどうかと迷う天候でしたが、そこはそれ、テントを張り立てテーブルを並べ、少々雨でも大丈夫な会場をつくり、いっぱい落ちている栗をたっぷり拾っていたかどうかと考えると、小雨の中、開催しました。参加者も雨具をしっかりと用意されていて、開催中、雨は弱まったり、強まったりしましたが、熊井の森の散策も少してきて、日常の暮らしにはない体験ができたことと喜ばれました。

今年開催して再確認したことは、街の中で暮らしている方が田舎を求めて、1時間も2時間もかけても参加されるということ、また、今まで参加が少なかった地元の方が増えてきたこと、以前開催した企画に参加された方のリピーターが増えてきたこと、そして鳩山町に近年引っ越ししてきた方の参加も多いことなどでした。これからも、鳩山町、熊井の森の魅力を発信していきたいと思いました。さて、来年はどうなるでしょうか。（嵯峨）



に雨避けのビニールを掛け、紐でくくって完成。頑張ったァ！ 刈り取りが終わった安心感と完成の達成感を感じた。昨年のできばえで連作障害を心配し、今年は新しい畑での栽培。今年のできを見て肥料など、色々課題も出たようだ。年一回の結果を見ての試行錯誤、農業とは気の長い話になるのだと実感した。右側の長い茎のものと左側の茎の短いものとは種が違う。さあ、どんな結果になりますか。（タカコ）

ニ－ハオ 熊井の森歳時記

熊井の森の虫草に「命の昇華」を想う



▲ツクツクボウシタケ（2024年9月10日）

9月定例自然観察会の際に、山道でふっとツクツクボウシタケと出会いました。地面から僅か1～2センチの真っ白な顔がこっそりと出ているだけなので、とても見逃されやすいんです。掘り出してみたら、下の部分がセミの幼虫だとすぐ分かりました。ツクツクボウシタケは中国で「蟬花」と呼ばれ、広い意味の「虫草」の一種です。

そもそも虫が草に変身することは到底不可能なことです。冬の間、真菌が土に潜っていた生きた幼虫に寄生し、ゆっくりと生長していき、幼虫の養分を利用して菌糸が成長しはじめ、夏になるとキノコの顔が地面から出てきます。学術的に言うと、「虫草」はガヤセミの幼虫またはアリなどに寄生菌の子実体が合体したものだそうで、もっとも有名なのは「冬虫夏草」。オオコウモリガの幼虫に寄生したものです。

ツクツクボウシタケはその名の通り、ツクツクボウシというセミの幼虫に寄生して生じたキノコです。本来ならば、数年の歳月をかけ明るい世界へ羽ばたくべきセミの幼虫ですが、生きたままで菌に侵入され、痛々しい生殺しですが、我を犠牲して世にも奇妙なモノを送り出す面から見ると、命の昇華とも言えるでしょう。

今回の観察会で初めて身近に「虫草」を観察することが出来ました。自然界の不思議に感心しつつ、自然界の残酷さも改めて感じました。（王 菲）

<活動雑記>



熊井の森のトラスト地（観察小屋）の草刈りに行ったとき、途中、道路脇に花が咲き乱れていました。畑や田んぼでは農家の方が野良作業をしている姿を

よく見かけ、目があったら挨拶し、今年の暑さの異常さを話題にしたり。そんな、いかにもの「里山」を感じさせてくれる好きな風景です。（ケンジ）

森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ⑧

保護政策でシカは増えたけれども……



▲二ホンジカの角（2024年9月24日）

先日、熊井の森を歩いていると林床に立派なシカの角が落ちていました。普段は警戒心が高く、観察会中に近くで見られることなど殆どないのですが、こういった落とし物によって生息を確認することが出来ます。

そんなニホンジカの角は春先に抜け落ちて毎年生え変わり、生え変わるたびに形が変わるため、4歳未満であれば角の形で概ね年齢が分かるのですが、4歳以上

になると変化が分かりにくくなるため角だけで年齢を知る事が難しくなります。拾った角は立派な3股なので3歳～ということになります。

さて、そんなニホンジカも過去には乱獲により生息数を激減させたのですが、その後の保護政策により生息数を増やし、鳩山町でも頻繁にみられるようになりました。今度は増えすぎてしまったため、森からあふれて人里近くにも出没するようになり農作物への被害も多くなってきています。シカの激増による影響はそれだけではなく、生息密度が増えることでシカの食べられる植物が森の中から無くなり、シカが苦手な有毒植物などばかりになってしまう「シカ植生化」という現象も各地で起きています。慣れてくると森に生えている植物の特徴だけでその地域のシカの多寡もわかってきます。そんなシカの頭数管理のためにも狩猟が必要なのですが、猟師の高齢化など、対策は十分とは言えない現状となっています。（愛場 結偉）

定例観察会のご案内



開催日：10月からは週末に変更
集合場所：熊井の森・石場沼下の空き地
（駐車場としてお借りしています）
集合時間：午後1時半（終わりは午後3時過ぎ頃）

はとやま環境フォーラムは月に一度、熊井の森に入り観察会を行っています。その時々に出会えた生き物を記録し、熊井の森のより良い在り方を模索するため、継続的に森や周辺の変化を楽しみながら調べています。ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。

足の便の都合のつかない方はご一報を。ニュータウンかわせみハウス前で待ち合せて相乗りで向かい、帰りもご一緒できます。